



Be Creative !



レジリエンス 君たちに求められる力



10 月 4 日(土)、吹奏楽部が中部日本本大会小編成の部に出場し、金賞に輝くとともに、第 3 位にあたる「中部日本吹奏楽連盟理事長賞」を受賞した。課題曲の入りが印象的だった。音はまっすぐに私たちの方に伝わってきた。自由曲「江戸の情景」はいつもながらの安定感に満ちていた。その通りの結果がついてきた。インスタグラムには、すぐに彼らの奮闘がアップされていた。その文章にこうあった。「夏の全日本吹奏楽コンクール東海大会でまさかの銅賞に悔し涙を流した」…改めて、そうだったのかと思った。

夏の全日本吹奏楽コンクールへの道のりは厳しい。地区大会での選考を経て、県大会に進む。その県大会で選考されても、すぐには東海大会へはたどり着けない。さらに、別日での選考会を経て、そこでの選考を潜り抜けて、やっと東海大会にたどり着く。しかも、選考されたとしても、全国大会へと続く A 編成の部と、東海大会で終了する B 編成の部に振り分けられる。全国大会へと道が開かれていく A 編成の部に是非とも選出されたいと誰もが願う。本校の吹奏楽部もそれを願い、精一杯の頑張りを発揮した。彼らは、見事、A 編成の部での東海大会出場をつかんだ。2023 年度・2024 年度と B 編成の部での出場であった。今年度の成果は、2 年ぶりの快挙であった。強豪私学の中には 100 人を優に超える部員を抱え、その内の精鋭 55 人が出場する学校がある。本校吹奏楽部は総力戦だ。4 月に入学したばかりの 1 年生もたった 4 か月で高校生としての舞台上がる。そうした彼らの状況を知るがゆえに、私は A 編成の部での出場に大きな拍手を送りたいと思った。強豪と戦ったのだ。立派な成績だ。

『まさかの銅賞』…結果を告げられた部員は絶句するしかなかった。」と顧問は振り返る。その絶句を抱え、彼らは約 2 か月の時を過ごしたのである。自らの力と彼らは真正面から向き合ったと言える。

彼らの取り組みを見ていると「レジリエンス(resilience)」という言葉が浮かんでくる。もともとは物理学で「弾力」や「回復する力」を指す言葉であったものが、最近は「ストレスや逆境に直面した際に、それを乗り越えて元の状態に戻る力、またはそこから学び、成長する力」を意味するようになった。困難な状況にあっても精神的健康を維持できる能力、ストレスや困難に直面しても心理的安定を保ち、それを乗り越えて成長する力、様々な環境や変化に適応し、その中で生き延びる力、将に人間としてのしなやかさを持てるかどうかが問われる。この人間としての「しなやかさ」を吹奏楽部の諸君は見事に私たちの前で披露してくれた。心から「ありがとう」と伝えたい。私もまた、しっかりと前を向いて歩いていきたいと彼らは思わせてくれた。

ストレス多き社会に生きる私たちには、この「しなやかさ」を持ちたいと思いつつも、早々簡単なことではないことも十分にわかっている。互いの置かれている心情や状況を認め合う「優しさ」を持ちたいものだ。「レジリエンス」とネットで検索してみるとよい。説明の中にこんな言葉が出てきた。「レジリエンスを高めるための方法」の一つに、「困った時に、人に助けを求める、このことをためらわずに行うこと」とあった。人間は一人では生きられない。このレジリエンスという力もまた、自分一人で身に着けることのできる力ではどうもなさそうである。